



2025年度

事業報告書

学校法人 安田学園

Tel: 082-878-6321

〒731-0153

広島県広島市安佐南区安東 6 丁目 13-1

目次

○法人の概要	3
建学の精神	3
設置する学校	4
所在地	4
沿革	5
学校組織図	7
事務組織図	8
設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数	9
役員等の概要	10
○事業の概要	13
当年度の主な事業	13
安田女子大学・安田女子短期大学	13
安田女子中学・高等学校	20
安田小学校	24
安田幼稚園	28
安田幼稚園安東園舎	32
○財務の概要	37
貸借対照表の推移	39
事業活動収支計算書の推移	38
資金収支計算書の推移	39
貸借対照表の関係比率の推移	40
事業活動収支計算書関係比率の推移	40
在学生数・教職員数の推移	40
財務の概要	41
○内部統制システムの整備及び運用状況の概要	42
○附属明細書	43

法人の概要



建学の精神

学校法人安田学園は、「女子に教育は無用」とする風潮が強かった大正時代に、自ら女子教育の重要性と必要性を痛感し、「品格と教養を兼ね備えた女性を育てたい」と願った初代学園長安田リヨウにより開校されました。

建学の精神「柔しく剛く」は、「人間としての柔しさや徳性を身につけた人格を形成し、人間として剛い意志をもって社会に貢献することのできる、心身ともに健全な教養ある人間を育成する」ことをめざした安田リヨウの信念です。学園はこの創立以来の理念・教育方針を、世の中の変動に流されることなく長年守り続けてきました。

創立から111年、学園は数多の苦難と社会の変化を乗り越え、現在では幼稚園から大学院までを設置する「幼児教育から最高水準の教育を一貫して行える総合学園」として、地域社会から高い評価を得ています。

学校法人安田学園は、これからもしっかりと堅実に、柔しく剛い人材を社会に送り出してまいります。

設置する学校

学校名	学部・学科・専攻・課程	キャンパス
安田女子大学	大学院 文学研究科 博士前期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻 教育学・心理学コース 臨床心理学コース 博士後期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻 家政学研究科 修士課程 健康生活学専攻 薬学研究科 博士課程 薬学専攻 看護学研究科 博士前期課程 看護学専攻 博士後期課程 看護学専攻	安東
	文学部 日本文学科 書道学科 英語英米文学科	
	教育学部 児童教育学科 幼児教育学科	
	心理学部 現代心理学科 ビジネス心理学科	
	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 国際観光ビジネス学科 公共経営学科	
	家政学部 生活デザイン学科 管理栄養学科 造形デザイン学科	
	薬学部 薬学科 看護学部 看護学科 理工学部 生物科学科 情報科学科 建築学科	
安田女子短期大学	保育科	白島
安田女子高等学校	全日制課程 普通科	
安田女子中学校		
安田小学校		
安田幼稚園		
安田幼稚園安東園舎		

所在地

安東キャンパス

〒731-0153 広島市安佐南区安東6丁目13番1号

白島キャンパス

〒730-0001 広島市中区白島北町1番41号

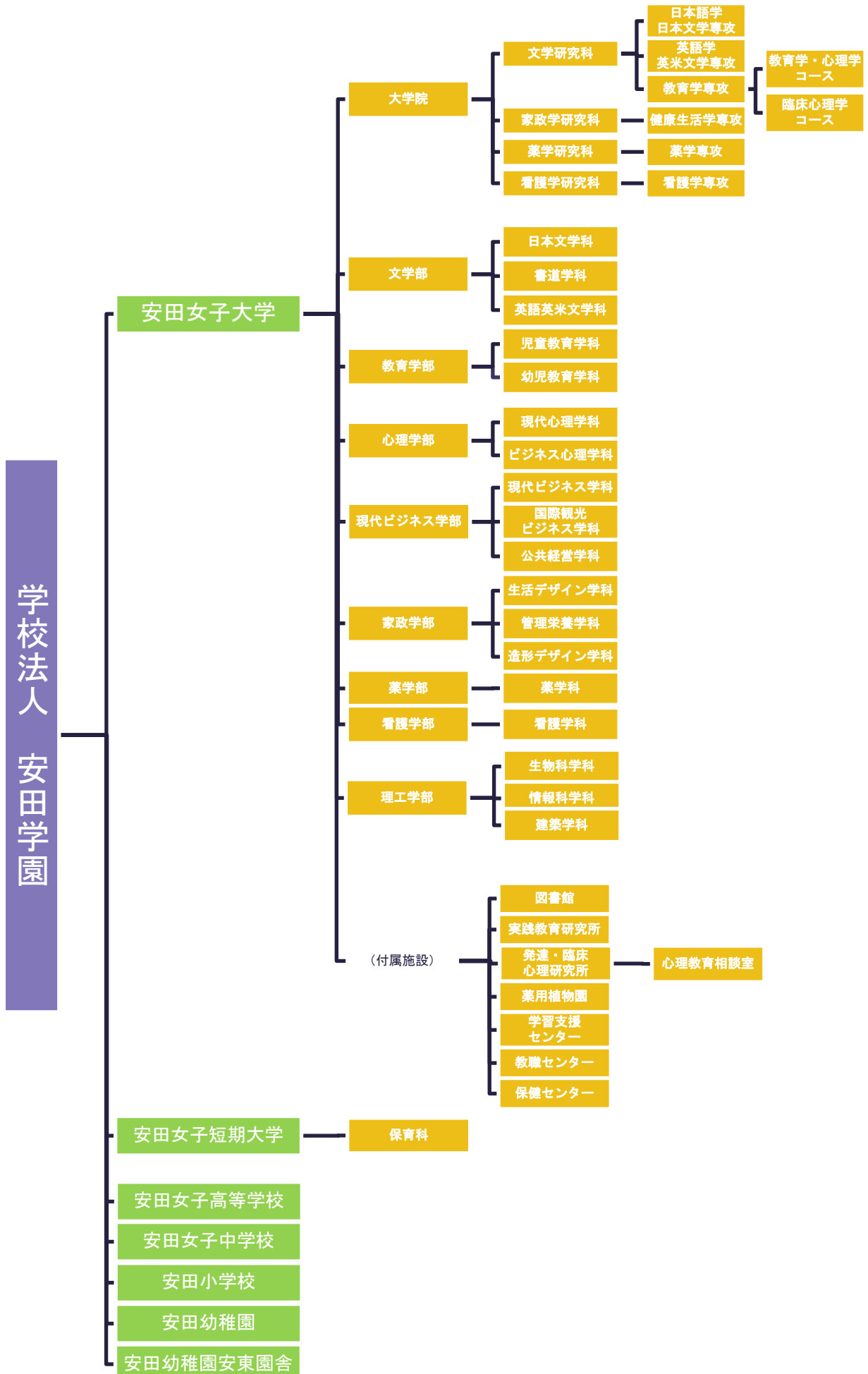
〒730-0002 広島市中区白島中町2番25号

沿革

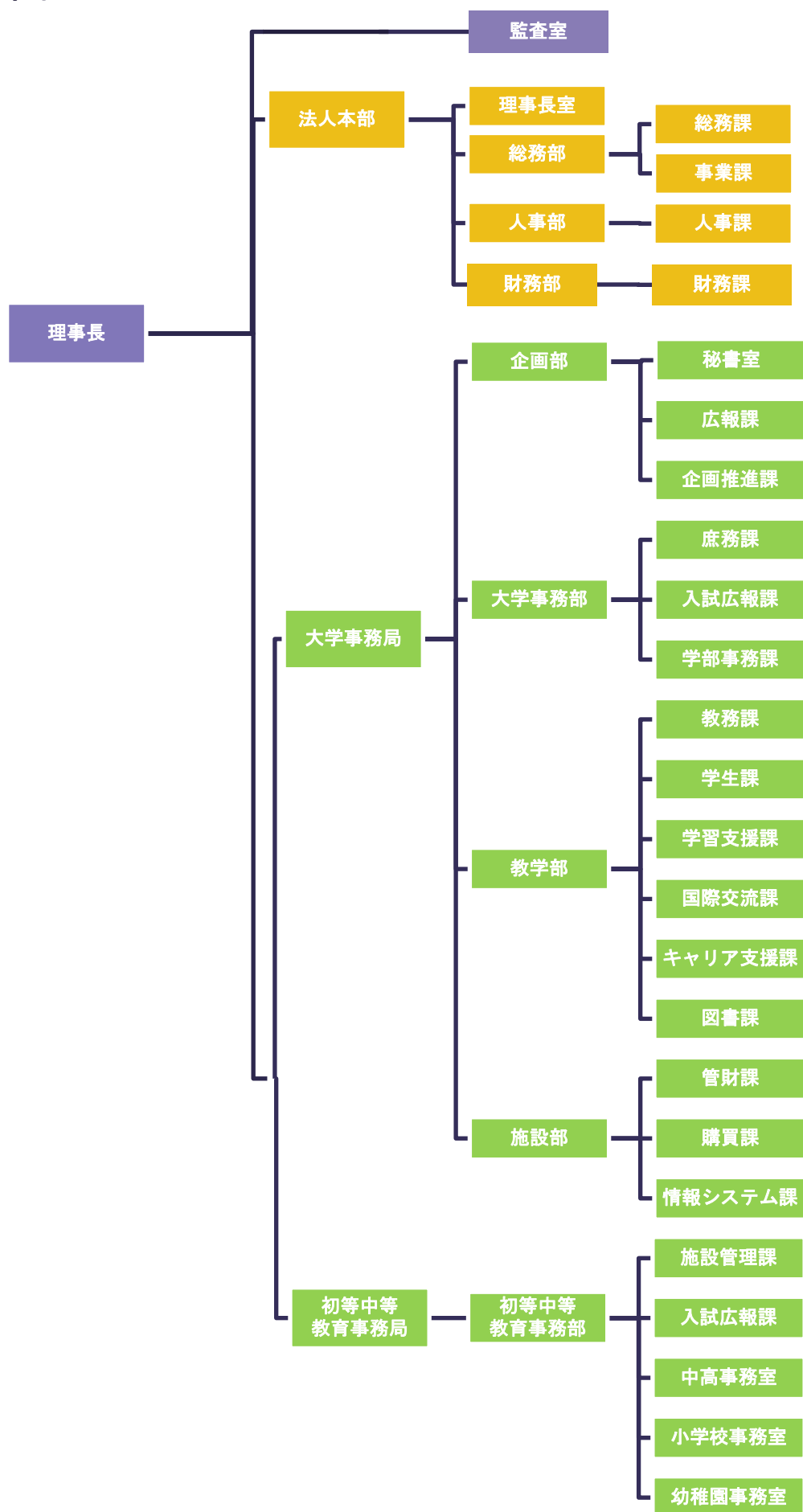
1915年	1月 4月	広島技芸女学校開校の開設認可を広島県知事より受ける 各種学校令による広島技芸女学校を開校（広島市中島本町）
1917年	10月	校地を広島市基町（現西白島町）に移す
1918年	4月	広島技芸女学校を安田技芸女学校と改称 実業学校令による広島技芸女学校を開校
1920年	4月	安田技芸女学校は旧名の広島技芸女学校に復称 広島技芸女学校を高等女学校令による広島実科高等女学校に昇格
1922年	4月	広島実科高等女学校を改組して安田高等女学校を開校
1927年	8月	広島技芸女学校を広島高等家政女学校と改称（1945年3月まで）
1928年	8月	安田高等女学校を財団法人安田高等女学校に改組
1930年	5月	広島女子教員養成所を開所
1944年	3月 5月	広島女子教員養成所を廃止 安田高等女学校内に保育所を併設（1945年3月まで）
1945年	8月 12月	原子爆弾のため職員13名、生徒315名死亡 校舎全壊、終戦 校地に旧工兵隊跡地使用の内諾を得、翌年1月本格的復興工事開始
1946年	4月	安田高等女学校5年制となる
1947年	4月	学制改革により安田女子中学校を開校 広島Y・D・Mカレッジを開校
1948年	5月	学制改革により安田高等女学校を廃止し、安田女子高等学校を開校
1951年	3月 4月	学校法人安田学園へ組織を変更 広島県の委嘱をうけ広島県保育専門学校を開校（1953年3月まで）
1953年	4月 6月	安田学園幼稚園教員養成所を設置 安田保育園（1952年5月開園）を廃止し、安田幼稚園を開園
1955年	4月	安田女子短期大学保育科を開学
1956年	3月 4月	安田学園幼稚園教員養成所を廃止 安田小学校を開校 安田幼稚園を安田女子短期大学付属幼稚園と改称
1961年	4月	短期大学に家政科を増設
1965年	3月	広島Y・D・Mカレッジを廃止
1966年	4月	安田女子大学文学部日本文学科、英米文学科を安東校地に開学
1967年	9月	短期大学を白島校地から安東校地に移転
1975年	4月	大学文学部に児童教育学科を増設
1981年	4月	安田女子大学付属幼稚園を安東校地に開園
1984年	4月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
1963年	4月	短期大学に秘書科を増設
1991年	4月	短期大学家政科を生活科学科に名称変更
1994年	4月	大学に大学院文学研究科修士課程日本語学日本文学専攻、英語学英米文学専攻、教育学専攻を設置
1996年	4月	大学院文学研究科に博士後期課程を設置
1998年	4月	大学文学部に人間科学科を増設

2002年	4月	大学文学部日本文学科を日本文学専攻、書道文化専攻の2専攻に分離
2003年	4月	大学に現代ビジネス学部現代ビジネス学科を増設
2004年	4月	大学に家政学部生活デザイン学科、管理栄養学科を増設 大学文学部人間科学科を心理学科に改組、人間科学科の学生募集を停止、短期大学生生活科学科の学生募集を停止
2005年	3月	短期大学生生活科学科を廃止
2007年	4月 9月	大学に薬学部薬学科（6年制）を増設 大学文学部人間科学科を廃止
2011年	4月	大学文学部日本文学科日本文学専攻を日本文学科に改組、日本文学科日本文学専攻の学生募集を停止 大学文学部日本文学科書道文化専攻を書道学科に改組、日本文学科書道文化専攻の学生募集を停止
2012年	4月	大学文学部児童教育学科を教育学部児童教育学科に改組、文学部児童教育学科の学生募集を停止 大学文学部心理学科を心理学部心理学科に改組、文学部心理学科の学生募集を停止
2013年	4月	大学院に家政学研究科修士課程健康生活学専攻を増設 大学院に薬学研究科博士課程薬学専攻を増設
2014年	4月	大学に看護学部看護学科を増設
2015年	3月 4月	大学文学部児童教育学科を廃止 大学に現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科を増設 短期大学秘書科の学生募集を停止
2016年	3月 4月	短期大学秘書科を廃止 大学に家政学部造形デザイン学科を増設
2017年	9月	大学文学部心理学科を廃止
2018年	4月	大学心理学部心理学科を現代心理学科に改称 大学に心理学部ビジネス心理学科を増設 大学院に看護学研究科博士前期課程看護学専攻を増設 大学院に看護学研究科博士後期課程看護学専攻を増設
2020年	4月	安田女子短期大学附属幼稚園を安田幼稚園に改称 安田女子大学附属幼稚園を安田幼稚園安東園舎に改称 大学に現代ビジネス学部公共経営学科を増設
2025年	4月 8月	大学に理工学部生物科学科・情報科学科・建築学科を増設 大学に教育学部幼児教育学科を増設 短期大学保育科の学生募集を停止 幼稚園安東園舎に満三歳児クラスを新設

学校組織図



事務組織図



設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数

2025年5月1日現在

(単位：名)

学校	入学定員	編入学定員	収容定員	在学生数
安田女子大学				
大学院				
文学研究科				
博士前期課程	30	-	60	23
博士後期課程	9	-	27	3
家政学研究科				
修士課程	3	-	6	-
薬学研究科				
博士課程	2	-	8	1
看護学研究科				
博士前期課程	10	-	20	1
博士後期課程	3	-	9	2
大学院計	57	-	130	30
文学部				
日本文学科	90	1	362	348
書道学科	30	1	122	99
英語英米文学科	70	2	404	274
文学部計	190	4	888	721
教育学部				
児童教育学科	60	1	516	511
幼児教育学科	130	2	130	127
教育学部計	190	3	646	638
心理学部				
現代心理学科	90	1	362	349
ビジネス心理学科	60	1	242	202
心理学部計	150	2	604	551
現代ビジネス学部				
現代ビジネス学科	80	1	352	389
国際観光ビジネス学科	80	1	352	313
公共経営学科	60	1	242	174
現代ビジネス学部計	220	3	946	876
家政学部				
生活デザイン学科	120	2	604	571
管理栄養学科	120	-	480	449
造形デザイン学科	75	-	300	330
家政学部計	315	2	1,384	1,350
薬学部				
薬学科	100	4	614	612
薬学部計	100	4	614	612
看護学部				
看護学科	120	-	480	497
看護学部計	120	-	480	497
理工学部				
生物科学科	60	-	60	70
情報科学科	60	-	60	68
建築学科	60	-	60	64
理工学部計	180	-	180	202
学部計	1,465	18	5,742	5,447
大学計	1,522	18	5,872	5,477
短期大学 保育科			150	74
短期大学計	0	-	150	74
高等学校 全日制課程 普通科	270	-	810	622
中学校	250	-	750	515
小学校	105	-	555	549
幼稚園	70	-	210	209
幼稚園安東園舎	70	-	210	212
学園合計			8,557	7,658

役員等の概要

(1) 役員

理事 11名（理事長含む）

監事 2名

2026年3月31日現在

役員名		氏名	就任年月日	主な現職、役割等
理事長	常勤	安田 馨	2025.6.10	学校法人安田学園 理事長
常務理事		川畑 誠	2025.6.10	学校法人安田学園 法人本部 本部長
		栗栖 孝明	2025.6.10	安田女子大学・短期大学 学長補佐 大学事務局 局長
理事		箱田 雅之	2025.6.10	安田女子大学・短期大学 学長
		赤川 雅美	2025.6.10	安田女子中学高等学校 校長
		世羅田 慎治	2025.6.10	安田小学校 校長
		三上 留美	2025.6.10	安田幼稚園安東園舎 園長
		川目 俊哉	2025.6.10	学校法人安田学園 法人本部 理事長室 室長
外部理事	非常勤	瀬山 敏雄	2022.10.5(旧法)	外部情報の提供
		山野 瑞枝	2025.6.10	卒業生との連携
		大方 幸一郎	2025.6.10	外部情報の提供
監事		武井 康年	2025.6.10	業務、財産及び理事の業務執行の監査
		鳥居 聖	2025.6.10	業務、財産及び理事の業務執行の監査

(2) 評議員 15名

2026年3月31日現在

常勤・非常勤	氏名	就任年月日	主な現職
常勤	池田 智子	2025.6.10	安田女子大学・短期大学 学長補佐 大学教授
	野間 佳恵	2025.6.10	安田幼稚園 園長
	石田 泰隆	2025.6.10	安田女子中学高等学校 教諭
	小川 圭司	2025.6.10	学校法人安田学園 初等中等教育事務局 局長
	佐藤 聡	2025.6.10	学校法人安田学園 法人本部 総務部 部長
非常勤	森 由美子	2025.6.10	—
	鈴木 育江	2025.6.10	—
	八反田 三千子	2025.6.10	—
	藤田 香奈美	2025.6.10	—
	本多 立憲	2025.6.10	—
	中川 憲	2025.6.10	—
	川本 有美	2025.6.10	—
	山本 勝也	2025.6.10	—
	宝嘉 正博	2025.6.10	—
山田 正生	2025.6.10	—	

(3) 会計監査人 1名

暁和監査法人 就任年月日 2025年6月10日

(4) 責任限定契約及び役員賠償責任保険契約の状況

① 責任限定契約

私立学校法に従い、2020年10月5日から責任限定契約を締結しています。

A) 対象者

非業務執行理事（山野 瑞枝、大方 幸一郎）、監事（武井 康年、鳥居 聖）
会計監査人（暁和監査法人）

B) 契約内容の概要

非業務執行理事、監事及び会計監査人が善意で重大な過失なく職務を行った場合に限り、職務上の注意を怠ったことで生じる損害への責任を、寄附行為で定めた額と最低責任限度額のいずれか高い額を上限に限定する。

C) 職務執行の適正性を確保するための措置

責任限定契約の適用は、対象者が善意でかつ重大な過失がない場合に限る旨を定めています。

② 役員賠償責任保険制度

私立学校法に従い、理事会決議により2020年4月1日から私大協役員賠償責任保険に加入しています。

A) 団体契約者

日本私立大学協会

B) 被保険者

記名法人… 学校法人安田学園

個人被保険者… 理事長、理事、監事、評議員、会計監査人

C) 補償内容

a. 役員（個人被保険者）に関する補償

法律上の損害賠償金、争訟費用等

b. 記名法人に関する補償

法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

D) 支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

E) 保険期間中総支払限度額

5億円

(5) 理事選任機関の概要

全ての理事及び全ての評議員で構成する。

(6) 教職員

2025年5月1日現在

(単位：名)

区分	教員	事務職員	非常勤教員	兼務職員
大学	259	119	181	65
短期大学	4	1	4	1
高等学校	50	13	4	16
中学校	39	9	2	7
小学校	31	5	5	10
幼稚園	13	2	0	15
幼稚園安東園舎	12	2	0	14
その他	0	1	0	2
学園合計	408	152	196	130

事業の概要

当年度の主な事業

安田女子大学・安田女子短期大学



教育・研究等の質の向上／教育・研究の概要

中長期計画（2019年度～2026年度）の進捗・達成状況

- A. 3つのポリシーは公式ホームページで公表し、学生、教職員及び地域社会に周知しています。また、シラバスに当該科目とディプロマポリシーの関連を示し、3つのポリシーに沿った教育の展開強化に努めています。
- B. 自己点検・評価は本学の責任において恒常的に行い、質保証に努めており、当年度も自己点検・評価委員会にて3つのポリシーに沿った適正な運用状況を検証しました。その後、FD委員会、総務会等で報告し、3つのポリシーに沿った人材養成、教育の実施、入学生の確保がされていることを点検しました。また、2024年度に引き続き、アンケート検討委員会において、本学で実施している各種アンケート調査のより適切な実施に向けて実施方法や調査項目等の検討を行いました。併せて、自己点検・評価委員会、IR委員会及び企画推進課の機能を明確化し、本学の内部質保証を一層推進する体制の整備を行いました。
- C. 女子大学初として開設した理工学部は、「多様性の森創生プロジェクト」「LABOローテーション」「古民家リノベーションプロジェクト」など、1年次から正課外のプロジェクトを活発に行い、好調なスタートを切りました。
- D. 教育学部児童教育学科及び短期大学保育科で行ってきた幼稚園教諭・保育士養成を統合し、幼児教育学科を開設しました。2025年8月には初の試みとして、地元の連携企業や本学7学科の協力により、地域の子どもを対象としたイベント「Out of KidZania in ひろしま」及び「おやこサマーフェス」を同時開催し、約5,000人が来場しました。教育学部の学生は幅広い年齢の来場者に臨機応変に対応し、本イベントの運営を支える重要な役割を果たしました。
- また、2026年2月には保育科創設70周年を記念した式典を開催し、保育科を支えてきた在学生・卒業生・教職員が集いその歴史を振り返りました。さらに、長年にわたり築かれた教育精神と文化は幼児教育学科に引き継がれ、未来へと歩みを進める節目の機会となりました。

E. 所定の要件を満たせば、5年間（学部4年＋大学院1年）で「学士」「修士」の学位及び小学校教諭専修免許状が取得できる児童教育学科の「学部・大学院5年一貫コース」において、2021年度児童教育学科入学生が大学院に進学し、優れた業績を上げたため1年間で大学院修士課程を早期修了しました。

F. 公式ホームページによる3つのポリシーの公表に加え、求める人材像を『入学試験ガイド』『入学試験要項』に記載するとともに、オープンキャンパス、高校訪問、入試相談会等を積極的に展開することで、本学の教育理念にふさわしい入学者の受入れに向け、入学前段階から理解を促しました。

また、大学広報事業の一つとして、ブランディング映像「前を向くすべての女子たちへ」を制作し、SNSを中心に西日本全域で展開し、広島県外における認知度向上を図りました。また、「広島女子総合大学から名実ともに西日本を代表する女子総合大学へ」をコンセプトとして、2026年春季にWEBサイト・大学案内を10年振りにリニューアルする準備を進めています。これらの事業展開により、本学の認知度向上および安定的な志願者確保に努めました。

さらに、適切な体制のもとで公正かつ妥当な方法により、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜及び厳正な定員管理を行いました。

G. 電子データで効率的に出席状況を把握し、授業における出席確認の時間削減を図りました。さらに複数の評価方法を併用して、授業の到達目標に照らした学修の達成度を多様な観点から評価することをシラバスに示し、厳格かつ適正な評価を通じた単位認定を行うとともに、学科ごとのGPAの分析により成績分布の把握を行いました。また、全学生を対象に実施した「学生生活に関する実態調査」集計結果の分析により、学科ごとの学修状況や学生生活についての現状を把握し、大学運営に活かしました。これらの取り組みにより、多角的な教育の質の保証に努めました。

H. FD委員会、企画部企画推進課によるFD・SDの企画・運営により、例年どおり計画的かつ体系的な研修を行い、自己啓発を推進しました。特に新任教職員に対しては複数回研修を行い、本学園の建学の精神及び教育理念の浸透を図っています。また、本学では各学科におけるFD・SD活動をまとめた「学科FD・SD通信」を全教員に配付し、他学科の研修会を参考にFD・SD活動のより一層の活性化を図っています。

国際交流（海外研修プログラム／グローバル教育）

外国の言語や会話の学習に加えて文化や習慣について理解を深めるために「海外研修プログラム」を実施しています。2025年度は以下のプログラムを実施しました。

A. アメリカ/カナダ派遣5ヵ月留学（STAYS）16単位

対象： 大学英語英米文学科2年生（参加者32名）

期間： 2025年9月25日～2026年1月30日（128日間）

派遣先： カリフォルニア大学デイヴィス校（アメリカ）

B. アメリカ/カナダ派遣5ヵ月留学（STAYS）16単位

対象： 大学英語英米文学科2年生（参加者40名）

- 期 間： 2025年9月4日～2026年1月9日（128日間）
派遣先： ピッツバーグ大学（アメリカ）
- C. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）16単位
対 象： 大学国際観光ビジネス学科2年生（参加者38名）
期 間： 2025年8月18日～2025年12月23日（128日間）前半グループ
派遣先： ハワイ大学マノア校（アメリカ）
- D. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）16単位
対 象： 大学国際観光ビジネス学科2年生（参加者38名）
期 間： 2026年3月2日～2026年7月7日（128日間）後半グループ
派遣先： ハワイ大学マノア校（アメリカ）
- E. 児童教育学科海外教育語学研修（SEEC）2単位
対 象： 大学児童教育学科1～3年生（参加者12名）
期 間： 2026年2月28日～2026年4月3日（35日間）
派遣先： ヴィクトリア大学（カナダ）
- F. 現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修（G.LABOS）2単位
対 象： 大学全学部（参加者：18名）
期 間： 2025年8月7日～2025年9月10日（35日間）
派遣先： ワシントン大学（アメリカ）
- G. 看護学科国際交流・実践（IEAP）2単位
対 象： 大学看護学科1～2年生（参加者13名）
期 間： 2026年2月24日～2026年3月30日（35日間）
派遣先： アルバータ大学（カナダ）
- H. 欧米文化語学演習（EACLP）（アイルランド）2単位
対 象： 大学1～3年生（薬学部は5年生まで）（参加者13名）
期 間： 2026年2月7日～2026年3月15日（37日間）
派遣先： アイルランド国立大学ダブリン校（アイルランド）
- I. 教育学部 学部・大学院5年一貫コース
対 象： 大学児童教育学科4年生（参加者1名）
期 間： 2025年9月25日～2026年1月30日（128日間）
派遣先： カリフォルニア大学デイヴィス校（アメリカ）
- J. 書道学科書道台湾実地研修
対 象： 大学書道学科1～4年生、その他（参加者17名）
期 間： 2026年2月25日～2026年3月1日（5日間）
派遣先： 国立台湾芸術大学（台湾）

募集活動及び入学者選抜

対面を基本とする学生募集活動を積極的に展開した一方で、遠方の高校における出張講義や高校内説明会においては、オンライン方式も活用しました。主な学生募集活動は、YASUDA キャンパスフェア（4月）、高校3年生・保護者対象入試相談会（6月）、高校教員対象説明会（6月）、オープンキャンパス（7・8月）、高校訪問（通年）、キャンパス見学（通年）、出張講義（通年）、高校内説明会（通年）等です。2025年度は、12月に新たに「一般選抜直前攻略セミナー」をオンラインで開催し、年々減少傾向にある一般選抜志願者の獲得と、後述するYASUDAパスポート制度の認知促進を目的とした施策を展開しました。また、昨年度発足した学生広報アンバサダーによるオープンキャンパス等での企画運営やSNS等、学生目線での広報活動を積極的に行いました。

入学試験では、母子家庭進学支援奨学生選抜（母子家庭進学支援奨学金制度）の導入、YASUDAパスポート制度の導入（薬学部、理工学部のパスポート制度を全学に拡充）、自己表現型選抜の選抜方法見直し（面接への一本化）など、近年の社会的背景や志願者動向をふまえ、多くの入試改革を実行し、志願者の確保に努めました。入学者選抜においては、厳正な実施と定員管理を行いました。

学生生活

A. 新入生行事

オリエンテーションセミナーは、1976年から続いている本学の伝統ある新入生歓迎行事です。2025年度は5月に、広島県江田島市または島根県大田市の研修施設で新入生を対象に2泊3日の宿泊研修を実施しました。

研修を通して、新入生同士の交流だけでなく、新入生と教員や上級生が交流を図ることで、新入生が抱える不安を軽減し、目的意識を持って大学生活をスタートできるよう、上級生主体で取り組みました。

また、希望する学生が夏休みの帰省時に出身高校（母校）を訪問し、高校の教員に学生生活を報告することに関して、本学では教育的な機会と捉え学生への支援を行っており、2025年度は93名の学生に対し約112万円の支援を行いました。

その他、新入生を対象としたクッキングセミナーや一人暮らし支援イベントを実施し、新入生の生活の自立や大学内での人間関係の構築に向けた取り組みを継続して行っています。

B. 奨学金

a. 留学生交流支援プログラム（短期派遣）

本学の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣）に以下のプログラムが採択され、実施しました。

対象の海外留学プログラム参加学生で本奨学金の給付を希望する学生を選考し、合計85名に独立行政法人日本学生支援機構から受けた奨学金3,979万円を給付しています。

【奨学金の対象プログラム】

- ① 英語英米文学科 アメリカ/カナダ派遣 5ヵ月留学 (STAYS)
- ② 国際観光ビジネス学科 国際観光ハワイプログラム (HIBISCUS program)
- ③ 児童教育学科 海外教育語学研修 (SEEC)
- ④ 看護学科 国際交流・実践 (IEAP)
- ⑤ 全学科 欧米文化語学演習 (EACLP)

b. 安田女子大学海外研修支援制度

対象の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、学生 85 名に対し、1,700 万円を支援しています。(日本学生支援機構の奨学金との重複受給は不可)

【支援金の対象プログラム】

- ① 英語英米文学科 アメリカ/カナダ派遣 5ヵ月留学 (STAYS)
- ② 国際観光ビジネス学科 国際観光ハワイプログラム (HIBISCUS program)

C. 学生支援

a. 教育ローン利息補給制度

本奨学金給付制度は、指定金融機関の教育ローンを利用して納入する学納金等に係る利息の一部を奨学金として学生又は学生の保護者に補給するものです。2025 年度は、本奨学金の給付を希望する学生を選考し、44 名に約 188 万円を給付しました。

b. 朝食無料提供及び夕食半額補助

「学生食堂まほろば」では、朝食の無料提供を行っています。より多くの学生に毎日朝食を食べてから勉学に励んでほしい、朝食をとることで生活リズムを整えてほしいという思いで継続して支援しています。また、夕食は通常 400 円のところ、半額補助を行っています。

D. 保護者懇談会

2025 年 10 月 18 日、保護者の方々に来学いただき、本学の教育等に理解いただくことを目的に保護者懇談会を開催しました。学科別の説明会終了後は、希望者を対象に、チューター等による学生生活・学習・就職・進路に関する個別懇談を行いました。

学習支援

A. 課外講座

「航空業界対策講座」や「公立保育士対策講座」をはじめとする課外講座を年間 32 講座開講し、延べ 453 名が受講しました。なお、開講する講座のうち、Microsoft Office Specialist (MOS) 講座の検定料については、2022 年度より安田女子大学後援会による一部補助を行っています。

B. ボランティア活動

63 件のボランティア活動の募集を行い、延べ 112 名の学生が参加しました。

C. 各種検定試験

学生の資格取得支援のため、検定試験の学内申込受付、試験実施、安田女子大学後援会による検定料の一部補助を広く実施しています。

また、2025年度よりTOEICをオンライン化し、在宅受験できるようになりました。各検定試験の実施状況、申込者数等は次表のとおりでした。

(単位：名)

検定試験	学内 申込	学内 実施	検定料 補助	級	第1回	第2回	第3回	第4回	留学向	合計
TOEIC®	●		●	-	185	278	141	373	71	1,048
日本漢字 能力検定	●	●	●	2級	10	7				17
				準2級	5	6				11
秘書検定	●		●	準1級	3	1				4
				2級	38	31	13			82
				3級	2	3	2			7
日商簿記 検定	●		●	2級	1	2	2			5
				3級	30	33	23			86

D. 公務員勉強会

2017年より公務員就職希望者を対象とした学習環境を学内に整備し、資格スクールの講師による講座開講を学内にて実施しています。2025年度の勉強会参加者は189名、うち卒業学年は56名おり、就職決定者（公務員）は25名でした。

E. 学内コンクール・コンテストの開催

a. ピアノコンクールの開催

日頃の練習成果を発表するとともに、音楽追求への意欲と意識の高揚を図ることを目的として本学学生を対象に「第6回安田ピアノコンクール」を12月に開催しました。アドバンス部門21名、連弾部門6組（12名）、ビギナーズ部門3名、合計34名（2部門出場含む）が出場し、最優秀賞、優秀賞、唐花特別賞、審査員特別賞をそれぞれ表彰しました。

b. フォトコンテストの開催

キャンパス内の施設、風景、大学生活などを撮影した写真を募る「第15回安田フォトコンテスト」を7月に開催しました。5名の審査員がそれぞれテーマを設定し、計96点の応募がありました。各テーマより1点ずつ計5点の審査員賞を選定しました。

F. 入学前学習

入学までの期間に学習意欲を維持し、入学後の学修を円滑に進めることを目的として、高等学校までの学習内容を復習し基礎学力の定着を図る「入学前学習」を、入学予定者のうち786名に提供しました。AIが学習者の理解度を判定し、一人ひとりに最適化された個別カリキュラムで学習を進めることができ、今年度も一定の教育的効果が確認されました。

就職支援

個別指導で学生一人ひとりの自立を支援し、積極的できめ細かいサポートを行った結果、大学の就職率は99.5%（2024年度同率）、短期大学の就職率は、14年連続100%となりました。

学内で開催する企業就職者向けの合同就職説明会では、参加企業数を前年度の約210社から約290社に増やしました。参加学生約600名は、就職活動を良い状態でスタートできています。

また、前年度に引き続き、Uターン就職及び首都圏等の県外で就職活動を行う学生に対しての旅費補助制度や、近隣県（山口県、島根県、愛媛県、岡山県、鳥取県、香川県）との就職支援に関する協定により、県外就職の支援をしています。

施設設備の改修整備

A. 2号館 建設

理工学部の開設に合わせ、3学科の学修環境を1か所に集約し、実験設備や高速通信環境など、理工系教育に必要な機能を備えた2号館を整備しました。女子大学として、理工系分野で学ぶ学生を実践的に支援する教育拠点となることを目指しています。

B. 9号館西棟 空調機更新

設置後19年が経過し、機能が低下した空調設備を更新し、省エネルギー化も含めより快適な教育環境を提供することができました。

C. 5号館 食堂更新

学生食堂としての役割をより充実させるため、食事環境の改善に取り組み、快適で効率的な運営を目指して食堂設備を更新しました。

施設の拡張や厨房設備の更新に加えて、オーダーシステムも導入し、食堂の機能をさらに強化しました。

D. 9号館東棟 ウッドデッキ更新

設置後23年が経過し、経年劣化が進んでいたウッドデッキを更新しました。安全性が向上し、破損部分・きしみが解消され、学生が安心して利用できるスペースとなりました。これまでより快適に使えるようになり、休憩や交流など、さまざまな場面で活用しやすい環境を整えることができました。

E. プロムナード 自転車置場増設

学生数の増加により自転車置場が不足していたため、新たに84台分のスペースを増設しました。これにより、より多くの学生が快適に自転車登学できる環境を整備することができました。

F. 学内中枢ネットワークの10G化

本学の学内ネットワークは、2019年度に通信速度を500Mbpsから1Gbpsへ増強しましたが、その後も年々増加するネットワーク利用量に対応するため、さらなる高速化として10Gbpsへの増強を実施しました。これにより、高度化・多様化する教育および業務環境におけるネットワーク需要に対して、余裕をもって対応できる基盤を整備することができました。

G. 1、5、8、9号館の代表ネットワーク機器の更新

設置から10年以上が経過し、老朽化により性能および耐障害性の低下が見られていた各号館の代表ネットワーク機器について、更新を実施しました。あわせて、中枢ネットワークの10G化に対応した機器構成としたことで、通信速度が大幅に向上し、学生および教職員のネットワーク利用環境のさらなる改善が期待されます。

H. 図書館システムの更新

2012年度に導入した図書館システムの更新を実施しました。今回はクラウドシステムを採用したことで、安定したサービスの提供を実現するとともに、管理面の運用負担を軽減することができました。また、蔵書検索（OPAC）を含む利用者ポータル操作性も向上し、学生および教職員が必要とする資料によりアクセスしやすくなりました。

安田女子中学・高等学校



教育の概要

新しい学習指導要領では日常の授業においても探究的な取り組みが重視され、自ら課題を設定し、その解決に向けて協働的に取り組むことが求められています。本校でもその流れを意識しつつ、ICT 機器の活用や協働的な授業の取り組みなど、生徒の主体的な学習活動の活性化を目的に、公開・研究授業を推進しました。またその発表の場として、12月には校内で全校生徒による探究発表会を行い、日頃の探究活動の成果を発表しました。

高大連携をより一層推進するため、高校2年生総合コースにはPBL（3単位）、3年生総合コースにはIBL（3～6時間）、高大連携講座（2単位）という学校設定科目を設定し、安田女子大学を中心に近隣大学との連携を強化し、進路観育成の充実に努めています。

国際交流（海外研修プログラム／グローバル教育）

A. 国際交流

高等学校では夏期海外研修、短期留学などを通して異文化を体験し、国際的な視野を広げると共に、日本の伝統文化への理解を深める取り組みを行っています。2025年度も夏休み中にニュージーランド・ダニーデンの姉妹校オタゴ女子高校への語学研修やアメリカの大学生との異文化理解を目的とした似島でのイングリッシュキャンプ、また12月に台湾の姉妹校国立蘭陽女子高級中学との交流を実施しました。

a. オタゴ女子高校への語学研修・留学

・夏期海外研修

期 間： 2025年7月28日～2025年8月12日（参加者：21名）

・2ヶ月留学

- 期 間： 2025年7月28日～2025年10月3日（参加者：1名）
- ・オタゴ女子高校教育旅行団の来日

期 間： 2025年9月19日～2025年9月23日（13名来日）
 - ・ニュージーランド2ヶ月留学受入（ホームステイ）

期 間： 2025年12月12日～2026年2月12日（参加者：1名）
- b. 似島イングリッシュ キャンプ
- 期 間： 2025年8月8日～2025年8月10日（参加者：45名）
- c. 台湾の姉妹校国立蘭陽女子高級中学との交流
- ・国立蘭陽女子高級中学の生徒が来校

期 間： 2025年12月16日～2025年12月18日

* 2泊のホームステイ含む（22名来校）
 - ・国立蘭陽女子高級中学への訪問

期 間： 2025年12月23日～2025年12月26日

* 2泊のホームステイ含む（参加者：12名）

B. オンライン英会話の実施

英語において、「書く」「読む」「聞く」「話す」の4技能が重要視される中で、英語を話すことへの心理的バリアを取り除き、生徒のスピーキングとリスニングの能力を高めることを目的に、中学3年生から高校2年生までを対象に Weblio オンライン英会話を実施しています。年5～10回を目処に授業（OC）内で実施し、英検合格者の増加に貢献しています。

募集活動及び入学者選抜

募集活動

中学校	オープンスクール	6月 2日 7月19日 9月13日
	入試説明会	10月18日 11月 1日
	その他	安田小学校対象学校説明会 塾対象説明会
高 校	オープンスクール	9月13日
	入試説明会	10月18日
	その他	塾対象説明会

その他私立学校協会主催の私学フェスタや他団体主催の学校説明会などに多く参加した。

入学試験

中学校	A日程	1月 8日（受験者数：475名） 国語と算数の2教科型の入学試験
	B日程	1月 9日（受験者数：529名） 国語・算数・理科・社会の4教科型の入学試験
高 校	推薦入試	1月30日（受験者数：40名）
	一般入試	2月13日（受験者数：83名）

学校生活

A. アフタースクールの取り組み

放課後のアフタースクールでは、卒業生やさまざまな職業人を招いた座談会や、自分の好きな事柄を表現するような企画、学習サポートを行っています。

学習サポートとして、英検対策では Web 教材「すらら」を活用し、また 2022 年度から放課後の有料学習サポート講座として「YasudaPlus」を展開しています。「YasudaPlus」の受講を希望する生徒は、校内に常駐する担当者と一緒に週に 1 回以上学習会に参加し、学習の進捗管理を行いながら個々の学習レベルに応じた学習に取り組み、成果を上げています。

B. ルールメイカー育成プロジェクト

2019 年度から 2022 年度まで経済産業省「未来の教室」事業「ルールメイカー育成プロジェクト」のモデル校として、生徒が主体となり、校則の見直しを進めてきました。

このプロジェクトは、対話的・民主的な合意形成のプロセスを経て、生徒たち自身が教員・保護者などと協働して校則やルールを見直し、より良いルールに変えていく取り組みです。2025 年度も参加者を募り、定期的な話し合いを重ねながら、生徒や保護者にアンケートを実施し、校則の見直しや学校の生活環境改善について、学校と対話をしながら取り組みを進めました。

C. スクールドッグ

生徒の情操の安定や精神的なふれあいを目的に、日本スクールドッグ協会の協力のもと、スクールドッグの導入を検討しています。1 月よりトライアルとしてラブラドルレトリバー種のメス（2 歳）を学校に迎え、生徒と一緒に触れ合い、2026 年 4 月に正式譲渡の予定です。

進路指導

6 年間を通して生徒が適切な進路選択と主体的学習を行い、自らの進路実現を可能にしていくよう取り組んでいます。早朝・放課後の補習では学習段階によりレベル分けし、より適切で主体的な学習ができるよう配慮しています。また中学校入学時から卒業まで一貫した進路指導を行い、進路実現ができるよう各学年で下表のような取り組みを進めています。

	「進路観の育成や進路指導」に関する主な取り組み
中学生	職業ガイダンス (さまざまな職業について話を聞き、生徒の職業観を拡げる取り組み)
高校 1 年生	学部・学科研究 進路講演会 大学オープンキャンパスへの参加 (広大・東大・京大等) 大学の出張講座受講 模擬授業 早朝・放課後の補習授業 進路面談 教科面談 長期休暇中の補習・学習合宿
高校 2 年生	進路講演会 大学オープンキャンパスへの参加 (広大・東大・京大等) 大学の出張講座受講 早朝・放課後の補習授業 進路面談 教科面談 長期休暇中の補習・学習合宿
高校 3 年生	進路講演会 早朝・放課後の補習授業 進路面談 教科面談 長期休暇中の補習・学習合宿

施設・設備の活用、改修及び整備

A. 牛田総合グラウンド・白島グラウンドの活用

人工芝の白島グラウンドは、体育の授業で有効活用されています。牛田総合グラウンドは、体育の授業はもとより、放課後の部活動においても日々活用しており、各種大会での好成績につながっています。

実績（2025年度全国大会出場）

- 高校ソフトボール部 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）
全国高等学校女子ソフトボール選抜大会
全国私立高等学校女子ソフトボール選抜大会
- 高校バドミントン部 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）

B. 安田リヨウ記念講堂の活用

2022年に完成した安田リヨウ記念講堂では、入学式や卒業式などの式典、文化祭や合唱コンクールなどの行事を行っています。

2025年度の活用状況（抜粋）

文化祭（9月20日） 中学校合唱コンクール（11月15日）

絵おと芝居（11月23日）

定期公演

- 高校音楽部 中学校演劇部 高校演劇部 中高管弦楽部
中学ダンス部 高校ダンス部 など

1階の食堂では、4種類のランチの他に焼きたてパンやサイドメニューの販売も行い、連日多くの生徒が利用しています。

C. 生徒へのiPad配布等ICT機器の整備

校内のWi-Fi環境を整備し、中学生、高校生ともに生徒が個人のiPadを所持し、ICTを活用した学力の向上、情報の共有化に努めています。

授業での活用	ロイロノートを活用した協働的な授業、課題の配信 Google Formを活用したアンケートの実施
情報の共有化	Google classroomを活用した学校、学年、クラス内での情報の提供
その他の活用	スタディーサプリを活用したアダプティブラーニング（高校）

D. 施設・設備改修整備

a. 日本文化体験を目的とした教室

52畳の広さがある中高校舎3階和室では、茶道などの日本文化を体験する授業を行っています。部屋を半分に仕切って利用することも可能で、授業だけでなく課外授業（茶道、箏曲）でも活用し、小学校などを含め白島キャンパス全体で利用しています。

b. 換気設備

校舎に24時間換気設備が導入され、1時間あたり平均4.2回の空気入れ替えを行っています。この設備により、感染症対策や二酸化炭素濃度の低下を実現しています。

c. その他設備の設置等

6階ホールにオーダーメイドの半円ベンチ、変形L型ベンチを設置したほか、屋上には18脚のレイジアナベンチをバランスよく配置し、いずれも生徒たちの憩いの場となっています。開放的な学習スペースに置くことで、明るく心地良い空間となっています。

安田小学校



教育の概要

A. 授業力向上

教員の授業力向上をめざし、「自ら学ぶ力を育てる授業の創造」を研究テーマに授業研究を全教員で行いました。教科ごとにチームを作り、全員が研究授業を公開し、その後、研究協議会で意見交換を行いました。特に、研究授業を行ったことにより、子どもの思考力を高めることにつながったことは大きな成果でした。また、毎週金曜日の放課後に教員間で授業について自由に話ができる場を持つことで、日々の教材研究に力が入り、個々のレベルアップにつながりました。

B. しつけ教育指導力向上

しつけ教育の重点目標のふり返しを行いました。全体での意識統一を図ることができ、児童への指導および学級経営に活かすことができました。

グローバル人材育成プロジェクト

A. 姉妹校との交流学習・国際理解学習

オーストラリアにあるレディーマー・ルーザラン小学校と2013年に姉妹校提携を結んでから、日常の授業で交流を継続しています。1年生と2年生はクリスマスカード・年賀状のやりとり、3年生は決められたパートナーとのビデオ通話での交信・自己紹介、4年生はお互いの言語での手紙のやり取り、5年生は質問状のやり取りとそれに関するビデオ通話での交信など、学習段階に合わせた交流の機会を持つことで、語学力だけでなく、主体性やチャレンジ精神を向上させるとともに、異文化への理解も深めています。4、5年生の希望者を対象としたオーストラリア・アデレード郊外での海外研修（3月21日～4月2日 13日間）には26名が参加し、姉妹校との交流をさらに深めました。

また、その他の国際理解学習として、ハロウィン等の行事や学園のネイティブ英語教員による英語圏の文化紹介と体験に加え、英語圏以外の文化・習慣についても学び、民族音楽にも触れるなど、広く学習を行いました。5、6年生では、文化や習慣の異なる国の人と日本人との間に生じた誤解や摩擦を想定し、それを解決する短劇の脚本作成、ビデオ撮影と発表会の実施や、国際問題を解決するための国連とNGOの働きに関する学習、また、アメリカ人の有識者を招いて外国人から見た広島の問題を平和的に解決する考え方について聞く機会を設けるなど、段階的に学びを深め、グローバル人材育成に取り組んでいます。

B. 英語プログラム

英語を学び、使う機会を作ることを目的に English Day Camp を実施し、夏休みには4年生、冬休みには3年生の約50名が参加しました。

また、英語の授業を、1年生週3時間（年間102時間）、2年生週2.5時間（年間90時間）、3～6年生週2時間（年間70時間）実施し、英語スピーチコンテストの開催等、英語を話す場に向けてモチベーションを上げて取り組める機会を設けました。英語専任教員も4名配置し、少人数授業やTT授業など様々な形態で学習し、英語の修得に向けて取り組みました。

募集活動及び入学者選抜

A. 学校説明会

5月10日（土）、本校の教育に興味を持たれている方を対象として「学校説明会」を実施し、本校への理解を深めていただきました。

B. オープンスクール

園児とその保護者が学校や教育を知る機会とし、安田小学校に通いたいというイメージをもってもらえるよう2月14日（土）に授業体験を実施しました。

C. 「Instagram」による情報の発信

小学校の活動状況やイベント情報について、園児とその保護者に対しリアルタイムに伝えることによって関係性を深めることを目的としてInstagramによる情報発信を行いました。

学校生活

A. 一貫校としての取り組み

幼稚園から大学・大学院までを擁する安田学園の一員として、学園内の各校種と連携した多彩な教育活動を展開しています。2025年度の実施状況は以下のとおりです。

対象	連携先校園	内容
1年生	安田幼稚園	「あそびのひろば」での交流
2年生	安田幼稚園	「おもちゃまつり」での交流
4年生	安東園舎	「おはなし広場」での読書交流
5年生	安田女子大学	安東キャンパスの施設見学・授業体験 管理栄養学科の学生による食育教室

教員	安田女子中学 ・高等学校	研究授業への相互参加、情報交換
----	-----------------	-----------------

B. 図書館教育の取り組み

子どもの心を耕し、学力を支える図書館教育を実践しています。

図書の時間には、「ブックトーク」「ストーリーテリング」「パネルシアター」「読み合い」「アニメーション」「読書会」などの読書指導や、「分類番号」「図鑑と百科事典の使い方」「調べ学習」などの利用指導を行いました。図書資料と ICT を併用した調べ学習や、くすのきラボや「たたみコーナー」などの開放的な空間を活用した、教室とは違う雰囲気での定期的な読み聞かせも行いました。また、「リーディング・ビジット」「読書郵便」「親子読書」「朝の 10 分間読書」「読書祭り」「英語の絵本の読み聞かせ」等をとおして、図書館教育の充実に取り組みました。

C. しつけ指導

『安田式しつけ教育』（書籍）に基づき、第 2 章「学校のしつけ」と第 3 章「授業のしつけ」についてカリキュラムを作成し、全学年で計画的にしつけ教育に取り組みました。第 1 章「家庭のしつけ」では保護者の方のご協力のもと取り組みました。

D. 安全指導・安全対策

a. 登校・下校指導

児童の安全確保のため、複数の指導を実施しています。4 月には、1 年生と 2 年生を対象とした交通安全教室を実施し、また、土曜日や学校行事の下校時には教員が学校の周りに立ち、児童の安全と迷惑をかけない態度について指導を行いました。さらに、下校方面別指導として年 2 回、全学年一斉に下校方面別の話し合いの場を設け、「危険な箇所」や「子ども 110 番の家」の確認をするなど、登下校でのマナー向上と危険回避能力の向上を図りました。

b. 防災訓練

4 月に防災知識と避難方法を学習し、訓練を 5 月と 2 月の年 2 回実施しました。

E. 多様な体験活動・宿泊学習・鑑賞会等

a. 体験活動

- ・ 4 年（12 月）、5 年（1 月）スケート教室：広島ビッグウェーブ
- ・ 6 年（2 月）スノーボード教室：めがひらスキー場

b. 宿泊学習

- ・ 3 年 山の学習 1：由宇ふれあいパーク 6 月 5 日から 1 泊 2 日
- ・ 4 年 山の学習 2：帝釈峡 6 月 11 日から 2 泊 3 日
- ・ 5 年 Global English Camp：もみのき森林公園 6 月 11 日から 1 泊 2 日
- ・ 5 年 まほろば学習：京都での日本の伝統文化体験学習 10 月 22 日から 2 泊 3 日
- ・ 6 年 山の学習 3：島根県三瓶山一帯 6 月 11 日から 2 泊 3 日

c. 鑑賞会・特別授業

「一流のものを鑑賞させる」というテーマのもと、児童に本物の芸術を体験させ、豊かな情操を養い、芸術を愛する心を育むことを目的として内容を選定し実施しました。

- ・ 5 月 全学年が劇団トマト座の演劇「子象物語」鑑賞を行いました。
- ・ 2 月 6 年生が広島東法人会による「租税教室」の学習をしました。

F. 食堂での給食

食堂での給食を実施しています。弁当作りの負担がなくなったこと、冬場でも温かい食事が食べられることに多くの保護者から喜びの声が寄せられています。

保護者支援

A. 携帯電話の持たせ方

携帯電話所持に関する届出制のルールについて、保護者への理解を図りました。

B. 学校カウンセラーの配置

子育ての不安や悩みを相談する場として、学校カウンセラーを配置しました。数名の保護者が継続的に利用しています。

C. アフタースクール

放課後の預かりとして「ホームクラス」では宿題や読書、校庭や室内での遊びを行いました。また、英語、そろばん、体操、サッカーなど知識や技能を培う「スタディコース」を 18 コース展開し、フットサル、ミニバスケットボール、キッズダンスといった運動系の講座が人気を集めています。また英会話教室を新たに開講し、着実に受講児童を集めています。ホームクラスとスタディコースを併用することで最長 19 時までの放課後預かりが可能となりました。年々利用者が拡大し、全家庭の 8 割が利用登録しています。

D. 「れんらくアプリ」の運用

小学校からの緊急連絡を始め、遅刻・欠席の連絡、各種アンケートの実施など、家庭と小学校との緊密な情報交換を目的として、「れんらくアプリ」を運用しています。

施設・設備の活用、改修及び整備

A. 校舎を活用した教育活動

校舎の空間を新しい学びの場として活用した教育の実践として、1 階くすのき広場の広いスペースを利用した火山の噴火モデル実験、吹き抜けでの 10m の振り子実験、回廊にコースを設置した視覚障がい者歩行体験等を実施しました。

また、吹き抜けは全児童が集まる場所としても活用し、6 年生の卒業の際はお祝いとして全児童が 1 階の 6 年生に紙吹雪を撒いたり、音楽朝会では 1 階で 6 年生が演奏するピアノに合わせて各フロアの児童が合唱するなど、一体感のある時間を過ごせる活用をしています。

安田幼稚園



保育・研究活動

A. 重点目標と学校評価

2025年度の重点目標を「やさしい心たぐましい力」の育成と決めました。4つの教育の柱には自己評価の視点として、①心通うあいさつは「片付け（基本的な生活習慣の定着）」、②自然とのかかわりは「身近な生き物への親しみ」、③友達いっぱい「戸外での運動遊び」、④おはなし広場は「話を聞く力」に設定し、指導に努めました。

取組結果に対する学校評価では、保護者評価（Webアンケート、回収率100%）で各項目とも4段階評価で3.4～3.9、自園評価は3.3～.4.0となりました。学校関係者評価委員会での意見と併せて課題を明確にし、次年度に繋げていきます。

B. 職員研修

6月から9月にかけて、「環境」を共通研究テーマに掲げ、各担任が研究保育を実施し、互いの保育を観察しあう中で、より適切な環境設定を学び合うと共に、指導技術の向上、幼児理解を深めることに努めました。また、若手教員の育成と保育の質の向上を目的に、ベテラン教員の保育を年間5回程度参観する場を設け、互いの指導力を高めました。また夏季休暇などを利用し、学外研修にも数多く参加しました。

募集活動

広島市私立幼稚園連盟の園児募集に関する取り決めがなくなったことに伴い、例年9月中旬からとされていた願書配付を7月末から行い、園児獲得に向けた動きを早い時期から開始しました。園児募集説明会を9月初旬の2日間で、また願書受付を9月10日、面接を9月10・11日で実施しました。しかし少子化が進む中、応募者数が昨年度の105名から74名に減少する結果となりました。

今後は、本園の保育を体験できる未就園児対象のイベント内容の充実を図るとともに、Instagramやホームページ、ポスター掲示等での広報活動にさらに力をいれています。

またこれまで出願料は願書受付日に持参・支払いとしていましたが、コンビニ決済を導入したことにより、願書受付業務の効率化および円滑な運用が図れました。

園生活

A. 読書活動の充実

a. おはなし広場

園長による読み聞かせ「おはなし広場」を21年間継続して行っています。年間開催回数は94回、題材とした絵本94冊、紙芝居91冊で、学年ごとに実施しました。プロジェクターと教材提示装置を使用した大画面での読み聞かせは、園児が物語の世界に引き込まれる時間となっています。また、各学年とも、クラスでの日々の読み聞かせや月間絵本の活用にも力を入れています。

b. 絵本の貸し出し

本園の読書活動については保護者の方にも浸透し、家庭での絵本の読み聞かせにも協力的です。借りた絵本の題名や作者、子どもの感想などを毎回記録する「絵本カード」は、園・保護者とのコミュニケーションツールとしても活用しています。

夏休みにも絵本の貸し出しを実施し、のべ88組の親子の利用がありました。

B. 自然体験

安佐南区にある学園の農園等を活用し、四季折々の作物の苗植えや収穫の体験をしています。収穫したジャガイモや玉ねぎを使ったカレーパーティーや、収穫したもち米での餅つき、さつまいもを使った焼き芋パーティーなどを実施しました。これらの活動を通して食への関心を深め、自然の恵みや管理してくださる方々への感謝の気持ちを育んでいます。

また、フラワーフェスティバルに飾る花を育てる「ピースフラワープロジェクト花育」に2025年度も参加し、3月初旬からペチュニアの花の苗を育てました。

C. 英語教育の充実

英語に親しめる幼稚園をめざして、英語教育に力を入れました。小学校・中学高等学校からネイティブの英語教諭に週4日来園してもらい、絵本の読み聞かせや運動遊び、カード遊びなどを通して英語に触れる機会を作りました。4・5歳児は週に1回、ECCの正課レッスンを受けることで英語力の向上を図りました。また、3歳児も週に1回、小学校のネイティブの英語教諭による「イングリッシュタイム」を実施し、絵本の読み聞かせや、歌やダンスをとおして英語に親しむ機会を設けています。日常の保育の中でも、朝の会や帰りの会では、英語に触れる機会を多く持ちました。年長児の大半が年齢や名前・天気などは、簡単な英語で受け答えができるようになりました。7月・11月・2月には、ハローウィークを実施し、英語で朝や帰りの挨拶を行いました。

D. 一貫校としての取り組み

一貫校であることを活かし、学園内の学校と連携、交流する機会を設けています。身近なお兄さん、お姉さんとのかわりは、園児にとって安心して密な交流ができる場となっており、また、就学の期待や、関わってくれる高校生等の職業観を育む機会としても、関係者それぞれにとって意義のある取り組みとなっています。

2025年度の実施状況は以下のとおりです。

対象	連携先	内容
年中組	安田小学校	「あきあそびの会」での交流

年長組		「おはなし広場」での読書交流
全園児	安田女子高等学校 (幼児教育に 関心のある生徒)	預かり保育での保育支援
保護者	安田小学校	教育講話（安田小学校の教育内容、内部進学、 特別選抜（専願）等について）

E. 防犯・安全（避難訓練）

園では非常時に備え、全園児を対象とした各種訓練を計画的に実施しています。不審者対応訓練を年 1 回、地震想定訓練を年 3 回（うち 2 回は津波想定および預かり保育時間帯を想定した訓練）、火災想定訓練を年 2 回実施しました。また、園児の危機管理意識を高めることを目的に、園バスにおける置き去り防止訓練も行い、万一の際の適切な行動について学びました。

さらに 2025 年度は、広島市中央警察署の協力を得て防犯教室を実施しました。防犯標語「いかのおすし」や、不審者との距離の取り方などについて指導を受け、園児の防犯意識向上につなげました。

F. 給食

2022 年夏に白島キャンパス内に食堂が完成して以降、食堂で調理した温かく栄養価の高い給食を幼稚園まで運んで喫食しています。6 月と 10 月には保護者試食会を実施し、保護者にも給食の良さを実感していただきました。

子育て支援

A. 預かり保育

保護者の仕事や所用に合わせ、早朝と保育終了後の「預かり保育」を実施しています。2025 年度の利用状況は、昨年度に対して大幅に増加しました。共働きの家庭は 59%と昨年度の 56%に比べて 3%の増加でした。年間 232 日の実施日に対し、総利用園児数が 100 名を超えた日が 59 日ありました（最高 118 名）。その他の曜日も常時 80～100 名の利用があります。大勢の利用園児が安心して過ごすことができるよう、環境や活動内容の検討を図ってまいります。

<時間帯別内訳>

※人数はのべ数・（）は伸び率

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
早朝預かり	6,094 名 (+11%)	6,125 名 (+1%)	8,497 名 (+39%)
通常預かり	13,669 名 (+16%)	14,203 名 (+4%)	20,422 名 (+44%)
延長預かり (17-19 時)	6,946 名 (+14%)	7,007 名 (+1%)	7,414 名 (+6%)
開園日の利用者総数	14,772 名 (+14%)	15,297 名 (+4%)	17,861 名 (+17%)
長期休業中の預かり	2,601 名 (+18%)	3,089 名 (+19%)	3,677 名 (+19%)

B. 課外教室

英語・音楽・体育・バレエ・硬筆・サッカーの6つの課外教室を実施しました。好きな課外教室が選べ、通常保育後に慣れた場所で参加できることから共働きの家庭の園児も参加しやすく、複数の課外教室を利用する園児が増えています。

2024年度に続いて2025年度も、夏休み限定の絵画教室を全4回実施し、年中組10名、年長組16名が参加しました。

夏休みに「プラバンアクセサリーワークショップ」、冬休みに「茶道体験教室」も実施し、様々な体験の場を提供しました。

C. 親子登園・園開放・園庭開放

2024年度から乳幼児とその保護者が気軽に集い交流できる場所として、0、1歳児を対象としたオープンスペースを実施しています。また、1歳児親子を対象とした親子登園「もも組」を10月から開始し、子育て支援の充実を図りました。昨年度までと同様、未就園児親子に遊びの場を提供し園生活を知っていただくことを目的とした親子登園、園開放、園庭開放も実施し、地域の子育て支援センターとしての役割を担いました。年間の実施状況は下記のとおりです。

行事名	対象	実施回数	参加状況 * () は前年度
親子登園りんご組	2歳児	44回	のべ379組 (56回・464組)
親子登園もも組	1歳児	7回	のべ70組
休園日の園開放	2歳児	2回	88組 (2回・81組)
開園日の園開放	1歳児～	2回	44組 (2回・45組)
園庭開放	1歳児～	7回	168組 (10回・205組)
見学会	2歳児	8回	36組 (7回・32組)
オープンスペース	0、1歳児	12回	96組 (10回・89組)
園行事への参加	1歳児～	4回	105組 (2回・29組)

施設・設備の活用、改修及び整備

教員用タブレット10台、園児用タブレット20台を日々の保育の中で使用し、年長組は調べ学習に使用しました。また、教員用タブレットと電子黒板を接続して映像や音楽を流す回数が増えたことで、保育の充実にも役立っています。

安田幼稚園安東園舎



保育・研究活動

A. 重点目標と学校評価

a. 重点目標と重点項目の策定

子どもたちが園にある環境で主体的に取り組むために、教員のかかわり方や園にある環境のさらなる活用のあり方を積極的に考えていきたいという思いから、2025年度の教育における重点目標を「意欲的に環境に関わり、頭と体を存分に使って遊ぶ子どもの育成～環境に主体的に関わるための保育の充実を考える～」に設定しました。

本園の3つの教育の柱「自分が好き」「友達が好き」「自然が好き」から、各学年でめざす子ども像や具体的に取り組む事項を1項目ずつ重点項目として定めています。2025年度は以下のとおり設定し、指導に努めました。

「自分が好き」…「見たり、聞いたりしてよく考え、思いを伝えようとする」について

「友達が好き」…「言葉や行動で思いを伝えあいながら共に生活する喜びを感じる」について

「自然が好き」…「四季を感じ、美しい物を見て驚きや感動する心をもつ」について

b. 取組結果に対する学校評価

取組結果に対する学校評価では、保護者評価（Web アンケート、回収率 97%）で各項目とも4段階評価で3.9～4.0、自園評価でも3.3～4.0となりました。学校関係者評価委員会でいただいた意見と併せて課題を明確にし、次年度につなげていきます。

B. 子ども理解と園内研修の充実

2025年度は、担任全員で共通のテーマ「自然」と決めて、それに取り組む子どもの姿の記録をとり毎月1回、それぞれの記録を見せ合い、保育や子ども理解について話し合いを重ねてきました。年度末には、全教員の研修をまとめた冊子を作成しました。

また、併設大学の学生の卒論研究と並行して、学生による子どもの行動観察やアンケートに協力しました。いろいろな見地からの観察とアドバイスをとおして子ども理解を深め、教員による援助のあり方を考え、日々の実践につなげています。

C. 広島市私立幼稚園連盟の公開保育を実施

2025年11月19日に広島市私立幼稚園連盟の公開保育を実施しました。テーマを「意欲的に環境に関わり、頭と体を存分に使って遊ぶ子どもの育成～環境に主体的に関わるための保育の充実を考える～」に設定し実施しました。当日、38名の参加者があり、日頃の保育の様子をみてもらい、外部からの気づきや意見をいただき学びを深めることができました。

募集活動

A. 満3歳児クラスの募集開始

2025年より満3歳児クラスの募集を定員20名で開始し、10月からクラスをスタートさせました。定員に対して多数の応募があり、保護者や地域からのニーズの高さを実感することができました。

B. 年少クラスの応募者数の減少

満3歳児クラスの応募者数が多くみられた反面、2026年4月入園の年少組への入園応募者数は減少しました。広島市私立幼稚園連盟の園児募集に関する取り決めがなくなったことに伴い、例年9月中旬からとされていた願書配付を7月末から行い、園児獲得に向けた動きを早い時期から開始しましたが、少子化の影響も大きく、定員70名に対し65名の応募となりました。

C. 2026年度の満3歳児クラス入園児募集

2023年4月2日から9月30日生まれを対象とした2026年度満3歳児クラスの入園面接試験を、2026年1月に実施しました。

園生活

A. 満3歳児クラス「ひよこ組」の新設

近年では女性の社会進出に伴う就業率の上昇もあり、預かり保育の利用者の増加と共に、多くの保護者から、満3歳児保育に関する問い合わせや要望が多く寄せられるようになりました。

早い年齢からの集団生活を通じた基本的な生活習慣の定着や心身の健全な育成といった幼稚園に期待される教育的効果だけでなく、預かり保育などの保育領域に対する保護者のニーズも年々高まっており、早期からの保育を求める声が多くありました。

そこで、本園では、従来よりもさらに早い時期の満3歳児入園のニーズに対応するため、新たに満3歳児の定員20名の枠を設け、早期から質の高い教育を提供できる体制を構築したいと考えました。

定員が210名で在籍園児数は208名とほぼ満員の状態であったため、新たに満3歳児保育に対応するために、定員増の申請を広島県学事課に提出しました。3歳児70名、4歳児70名、5歳児70名に満3歳児保育の定員20名を新設・増員し、収容定員230名に増員することを申請し、2025年8月25日付けで、安田幼稚園安東園舎の収容定員を210名から230名に変更の許可がありました。

2025年10月から満3歳児クラスを新設し、ひよこ組とクラス名を決定しました。満3歳児クラスができたことにより、3歳の誕生日の翌日から入園が可能となりました。

B. 図書教育の推進

a. 絵本の貸し出し

1週間に1回の絵本貸し出しを継続しています。家庭での読み聞かせの時間を作り、親子で1冊の絵本の楽しさを共有することが、毎日の家庭生活の中に根付いてきていると感じています。園の蔵書を充実させ、家庭との連携を図る「絵本ノート」を活用しながら、今後も読書活動を推進していきます。

b. 「お話しタイム」の継続

園長が各クラスを訪れて絵本の読み聞かせをする「お話しタイム」を継続し、子どもの情操を豊かにし、聞く態度とともに聞く力の形成につなげています。

C. 自然体験

本園は自然環境に恵まれており、年間をとおして学園の農園での収穫体験ができます。管理してくださる方々の力を借り田植えをし、もち米を育て、収穫して餅つきを行い、食すという一連の体験は貴重です。野菜を植え育てるという活動も取り入れ、自分たちで育てた野菜の成長やそれを食することの喜びを味わいました。また、探索道で自然物収集やロープのぼり・芝すべりを楽しみました。

2025年度も、子どもたちが園で育てた花を広島フラワーフェスティバルの会場に飾る「ピースフラワープロジェクト」に参加しました。花を育てることから優しい気持ちや平和な世界への願いにつながってほしいと思っています。

D. ひろしま自然保育認証園としての活動の充実を図る

2024年12月27日に広島県より「ひろしま自然認証園」として認証された後も、本園の環境をいかし、自然活動についての学びを深め、充実した自然保育を子どもたちに提供してきました。

E. 一貫校としての取り組み

一貫校であることを活かし、学園内の学校と連携、交流する機会を設けています。特に、大学・短期大学と併設されている環境により、子どもたちはあらゆる体験の機会を持つことができます。また、教育者を志す大学生・短大生の卒業研究等への協力を行っており、相互に有意義な関わりを持つことができます。

2025年度の実施状況は以下のとおりです。

対象	連携先	内容
年長組	安田女子大学	陶芸体験（大学教員指導）
		お泊まり保育での大学図書館の利用
		大学祭でのオープニングステージ発表
年長組 親子		天文台での「親子で星を見る会」
全園児	安田女子大学 （家政学部 管理栄養学科）	「食育ピザパーティ」

全園児 保護者	安田小学校	校長講話「子どもの心を育てる会話」
年長組	安田小学校	1年生との交流「おもちゃまつり」に参加

F. 防犯・安全

2025年度も引き続き、全園児が防災頭巾を購入し、地震や火事、不審者侵入、園バス置き去りなど、さまざまな災害を想定した避難訓練を実施しました。

子育て支援

A. 預かり保育の充実

保育時間前後の預かり保育として、大学・短大の施設「ソフィア」での早朝保育や延長保育を継続しています。2025年度は通常保育と長期休業中を合わせ232日実施し、延べ人数11,931名（前年度12,673名）と多くの利用がありました。

＜時間帯別内訳＞

※人数はのべ数・（）は1日平均

	2023年度	2024年度	2025年度
早朝預かり	3,052名 (16.2名)	5,121名 (22.3名)	4,791名 (20.7名)
通常預かり	8,403名 (44.7名)	10,586名 (56.3名)	9,614名 (55.9名)
延長預かり (17-19時)	1,984名 (10.6名)	4,015名 (17.5名)	3,470名 (15.0名)
長期休業中の預かり	1,647名 (42.2名)	2,085名 (50.9名)	2,317名 (56.5名)

B. 水泳教室を開始し、課外教室をより充実

通常保育のあとに、そのまま園内で受けられる、専門の講師による課外教室を実施しています。英語・硬筆・絵画・サッカー運動遊び・ダンス・体操の6つの教室に、2025年度は水泳教室が加わり、より充実した内容となりました。水泳教室は、プールまで専用の送迎バスに乗って参加します。自分の好きなことを選んで学ぶ楽しみ、園内の友達と一緒に学ぶことでの励み、上達による自信など、子どもたちにとってたくさんの良い刺激があり、多くの園児が利用しています。

C. 未就園児子育て支援について

2025年度も2歳児親子登園を7月まで実施し、入園を希望する方々に体験の機会を提供し、地域の子育て支援にも貢献しました。また、満3歳児クラスがスタートしたことにより、10月から1歳児の親子登園を実施しました。その親子登園に参加した中から2026年度の満3歳児に応募した園児が多くみられました。

オープンスペースは、予約無しで参加できる、キッズルームを開放しました。0歳から2歳前までの乳幼児親子の参加者があり、子育て相談も行いました。

また、2024年度に続き、2025年度も早朝・延長預かり施設「ソフィア」でオープンスペースを実施。駅前預かり保育施設を公開し、取り組みを知っていただく良い機会となりました。

行事名	対象	実施回数	参加状況 * () は前年度
休日園開放「幼稚園であそぼう」	2歳児	3回	のべ84組(109組)
園開放	1歳～就園前	7回	230組(294組)
園庭開放	0歳～就園前	10回	のべ296組(234組)
親子登園	2歳児	24回	のべ178組(279組)
親子登園	1歳児	9回	のべ104組
オープンスペース	0～2歳前	8回	のべ70組(53組)
「ソフィア」オープンスペース	0～2歳前	2回	のべ10組(10組)

D. おひさま広場の開催

保護者と在園児に園庭を開放する「おひさま広場」を、降園後に年間で16回開催し、保護者同士が話をしたり、子どもの遊ぶ様子を見たりする良い機会となっています。

E. Instagramの起用

Instagramで園の行事や出来事などの情報発信を行いました。在園児の保護者を中心にフォロワー数も少しずつ増え、新たなツールでより多くの方に情報を届けられるようになりました。

施設・設備の活用、改修及び整備

探索道において、倒木の危険がある木を伐採しました。園内においてもドアなど細かな部分を修繕してきました。築年数がたってきており、今後も整備を重ねながら、安全な保育、遊びができるよう管理していきます。

財務の概要

今年度の貸借対照表の資産の部合計は、前期末より4億4,582万1千円増加し649億2,504万8千円となった。また基本金は、第1号の組入により47億9,011万6千円増加し、696億351万2千円となった。

事業活動収支は、事業活動収入計が117億1,510万2千円、事業活動支出計が111億9,618万3千円となり、基本金組入前当年度収支差額が5億1,892万円の収入超過となり、基本金組入後の当年度収支差額は△43億7,232万5千円となった。

資金収支について、収入総額は、254億4,598万8千円、支出総額は271億2,869万1千円となり(収支とも繰越支払資金を除く)、前年比では、収入は補助金収入の減少等により65億5,082万7千円減少し、支出は施設関係支出の減少等により44億3,789万4千円減少した。

財務上の重要な指標である事業活動収支差額比率の実績は4.4%(今年度の特殊要因である賞与引当金特別繰入額3億1,683万5千円を含む)であった。同系統(薬学部他複数学部)の大学法人の全国平均値(日本私立学校振興・共済事業団の発行する「今日の私学財政」)よりは近年4～5%程度(過年度実績のため賞与引当金特別繰入額を含まず)の水準であり、それと比較すると、財務的に安定した経営状況であると評価できる。引き続き、教育研究環境の充実・向上に十分留意しつつ、強固な財務基盤を維持出来るよう努める。

資産運用の状況について

通常の支払準備や不測の資金需要に対応するための流動性(現預金等)を十分に確保したうえで、特定目的(将来の校舎建替、什器備品の更新、退職給与引当等)の財源確保に向け、安定的な運用を行っている。運用の指標としてはインフレ見合いの年率2.0%程度を掲げているが、過度なリスクを回避するため、達成義務のある目標ではなく、あくまで「運用目安」の位置づけとしている。短期間でのポートフォリオの組み替えは相応のリスクを伴い、管理体制の構築にも影響が想定されることから、商品特性やリスクを精査したうえで、中長期的かつ段階的に整備を進める方針である。

運用体制としては、資金運用規程に基づき「資金運用管理委員会」を設置している。同委員会が運用状況のモニタリング、市場環境に応じた運用方針の見直しおよび執行を担い、理事会および監事へ定期的な報告を行っている。

今年度は、2号館等の大口支払いに伴い資金が減少する年度であったが、効率的かつ安定的な運用に努めた結果、受取利息・配当金収入は3.3億円に達し、運用目安である年率2.0%を上回る実績を確保した。

今年度の主な整備事業は次のとおりである。

- 安東キャンパス2号館建設工事費(31億7,830万円)
- 安東キャンパス理工学部什器・備品等(7億5,275万円)
- 安東キャンパス2号館什器・備品等(6億8,665万円)

今年度の寄付金収入54,968,718円の内訳は次のとおりである。

法人より	5 件	3,700,000 円
個人より	931 件	51,268,718 円

貸借対照表の推移

(単位:千円)

資産の部						前年度 増減
科 目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
固定資産	48,028,505	52,740,138	55,601,527	56,013,176	60,282,620	4,269,444
有形固定資産	36,517,553	41,195,746	41,471,001	45,553,309	49,258,202	3,704,893
土地	9,158,839	9,682,917	10,083,423	10,085,902	10,085,902	0
建物	20,021,322	26,463,386	25,714,781	24,708,091	32,599,713	7,891,622
その他の有形固定資産	7,337,392	5,049,443	5,672,797	10,759,316	6,572,587	△ 4,186,729
特定資産	11,475,971	11,506,719	13,995,029	10,325,076	10,890,200	565,124
その他の固定資産	34,980	37,673	135,497	134,791	134,218	△ 573
流動資産	10,721,881	7,052,415	5,531,003	8,466,051	4,642,428	△ 3,823,623
現金預金	6,498,550	5,419,517	5,285,108	5,715,339	4,032,635	△ 1,682,704
その他の流動資産	4,223,331	1,632,898	245,895	2,750,712	609,793	△ 2,140,919
資産の部合計	58,750,386	59,792,553	61,132,530	64,479,227	64,925,048	445,821
負債の部						
固定負債	4,430,414	4,075,259	3,762,925	3,291,113	2,929,052	△ 362,061
長期借入金	3,449,940	3,049,950	2,649,960	2,249,970	1,849,980	△ 399,990
退職給与引当金	980,474	1,025,309	1,112,965	1,041,143	1,079,072	37,929
流動負債	2,055,153	1,772,126	1,925,624	1,915,012	2,203,975	288,963
短期借入金	399,990	399,990	399,990	399,990	399,990	0
前受金	1,269,517	1,168,126	1,187,442	1,285,119	1,251,063	△ 34,056
その他の流動負債	385,646	204,010	338,192	229,903	552,922	323,019
負債の部合計	6,485,567	5,847,385	5,688,549	5,206,125	5,133,027	△ 73,098
純資産の部						
基本金の部						
第1号基本金	52,143,090	57,358,996	58,838,057	64,130,396	68,920,512	4,790,116
第2号基本金	1,854,251	2,000,000	4,000,000	0	0	0
第4号基本金	592,000	592,000	683,000	683,000	683,000	0
基本金の部合計	54,589,341	59,950,996	63,521,057	64,813,396	69,603,512	4,790,116
繰越収支差額の部						
翌年度繰越収支差額	△ 2,324,521	△ 6,005,828	△ 8,077,076	△ 5,540,295	△ 9,811,490	△ 4,271,195
純資産の部合計	52,264,820	53,945,168	55,443,981	59,273,102	59,792,021	518,919
負債及び純資産の部合計	58,750,387	59,792,553	61,132,530	64,479,227	64,925,048	445,821

事業活動収支計算書の推移

(単位:千円)

科 目		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度 増減	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	8,253,155	8,683,232	8,563,386	8,630,302	8,731,161	100,859
		手数料	90,273	84,734	99,026	98,479	118,090	19,611
		寄付金	18,049	71,773	18,485	14,653	54,969	40,316
		補助金	1,231,542	1,519,818	1,528,234	1,501,065	2,166,226	665,161
		国庫補助金	604,128	861,445	870,022	841,274	1,518,945	677,671
		地方公共団体補助金	624,714	655,873	657,812	659,391	647,281	△ 12,110
		学術研究振興資金	2,300	2,100	0	0	0	0
		若手・女性研究者奨励金	400	400	400	400	0	△ 400
		付随事業収入	115,812	92,966	86,750	90,322	91,525	1,203
		雑収入	279,270	269,566	306,410	284,323	210,422	△ 73,901
	教育活動収入計	9,988,101	10,722,089	10,602,291	10,619,143	11,372,393	753,250	
支事業の活動部	人件費	5,033,122	5,099,059	5,258,647	5,134,321	5,577,045	442,724	
	教育研究経費	3,032,206	4,171,825	3,605,020	3,895,352	4,691,461	796,109	
	管理経費	395,256	529,792	469,556	566,029	594,221	28,192	
	徴収不能額等	0	350	350	84	84	0	
	教育活動支出計	8,460,584	9,801,026	9,333,573	9,595,786	10,862,811	1,267,025	
教育活動収支差額		1,527,517	921,063	1,268,718	1,023,357	509,582	△ 513,775	
教育活動外収支	収事業の活動部	受取利息・配当金	548,136	615,239	266,714	352,513	332,672	△ 19,841
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	548,136	615,239	266,714	352,513	332,672	△ 19,841
	支事業の活動部	借入金等利息	20,250	18,250	16,250	14,250	12,250	△ 2,000
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
教育活動外支出計		20,250	18,250	16,250	14,250	12,250	△ 2,000	
教育活動外収支差額		527,886	596,989	250,464	338,263	320,422	△ 17,841	
経常収支差額		2,055,403	1,518,052	1,519,182	1,361,620	830,004	△ 531,616	
特別収支	収事業の活動部	資産売却差額	35,032	62,010	24,400	26	0	△ 26
		その他の特別収入	148,117	321,636	2,128	2,514,804	10,037	△ 2,504,767
		特別収入計	183,149	383,646	26,528	2,514,829	10,037	△ 2,504,792
	支事業の活動部	資産処分差額	56,354	221,350	46,898	47,329	4,286	△ 43,043
		その他の特別支出	0	0	0	0	316,835	316,835
		特別支出計	56,354	221,350	46,898	47,329	321,121	273,792
特別収支差額		126,794	162,296	△ 20,370	2,467,501	△ 311,084	△ 2,778,585	
基本金組入前当年度収支差額		2,182,198	1,680,348	1,498,812	3,829,121	518,920	△ 3,310,201	
基本金組入額合計		△ 411,946	△ 7,628,307	△ 3,786,669	△ 1,341,292	△ 4,891,245	△ 3,549,953	
当年度収支差額		1,770,252	△ 5,947,959	△ 2,287,857	2,487,829	△ 4,372,325	△ 6,860,154	
前年度繰越収支差額		△ 4,223,877	△ 2,324,521	△ 6,005,827	△ 8,077,076	△ 5,540,295	2,536,781	
基本金取崩額		129,104	2,266,653	216,608	48,952	101,130	52,178	
翌年度繰越収支差額		△ 2,324,521	△ 6,005,827	△ 8,077,076	△ 5,540,295	△ 9,811,490	△ 4,271,195	

(参考)	事業活動収入計	10,719,386	11,720,974	10,895,533	13,486,486	11,715,102	△ 1,771,384
	事業活動支出計	8,537,188	10,040,626	9,396,721	9,657,365	11,196,183	1,538,818

資金収支計算書の推移

(単位:千円)

収入の部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度 増減
学生生徒等納付金収入	8,253,155	8,683,232	8,563,386	8,630,302	8,731,161	100,859
手数料収入	90,273	84,734	99,026	98,479	1,180,090	1,081,611
寄付金収入	18,249	71,773	18,485	17,653	54,969	37,316
補助金収入	1,376,624	1,828,256	1,528,234	4,001,064	2,166,227	△ 1,834,837
国庫補助金収入	749,210	1,169,883	870,022	3,341,273	1,518,946	△ 1,822,327
地方公共団体補助金収入	624,714	655,873	657,812	659,391	647,281	△ 12,110
学術研究振興資金収入	2,300	2,100	0	0	0	0
若手・女性研究者奨励金収入	400	400	400	400	0	△ 400
資産売却収入	13,140,644	10,609,765	10,628,703	16,591,662	11,400,000	△ 5,191,662
付随事業・収益事業収入	115,812	92,966	86,750	90,322	91,525	1,203
受取利息・配当金収入	548,136	615,239	266,714	352,513	332,672	△ 19,841
雑収入	265,357	262,997	292,229	278,570	207,628	△ 70,942
借入金等収入	0	0	0	0	0	0
前受金収入	1,269,517	1,168,126	1,187,442	1,285,119	1,251,063	△ 34,056
その他の収入	3,044,023	2,668,020	713,035	4,444,702	2,917,148	△ 1,527,554
資金収入調整勘定	△ 1,567,962	△ 1,712,914	△ 1,367,294	△ 3,793,572	△ 1,824,495	1,969,077
小計	26,553,828	24,372,194	22,016,710	31,996,815	25,445,988	△ 6,550,827
前年度繰越支払資金	8,007,607	6,498,549	5,419,517	5,285,108	5,715,338	430,230
収入の部合計	34,561,435	30,870,743	27,436,227	37,281,923	31,161,326	△ 6,120,597

支出の部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度 増減
人件費支出	5,062,535	5,047,655	5,156,810	5,200,391	5,505,720	305,329
教育研究経費支出	1,851,400	2,855,940	2,291,634	2,524,275	3,338,583	814,308
管理経費支出	355,735	484,465	429,182	524,571	554,005	29,434
借入金等利息支出	20,250	18,249	16,250	14,250	12,250	△ 2,000
借入金等返済支出	400,070	399,990	399,990	399,990	399,990	0
施設関係支出	2,943,130	5,925,054	1,692,639	5,414,382	3,820,523	△ 1,593,859
設備関係支出	91,806	322,852	87,580	115,278	1,271,141	1,155,863
資産運用支出	17,468,053	10,194,066	12,213,613	17,231,753	12,170,849	△ 5,060,904
その他の支出	56,390	253,082	82,210	239,410	136,675	△ 102,735
資金支出調整勘定	△ 186,483	△ 50,127	△ 218,789	△ 97,715	△ 81,045	16,670
小計	28,062,886	25,451,226	22,151,119	31,566,585	27,128,691	△ 4,437,894
次年度繰越支払資金	6,498,549	5,419,517	5,285,108	5,715,338	4,032,635	△ 1,682,703
支出の部合計	34,561,435	30,870,743	27,436,227	37,281,923	31,161,326	△ 6,120,597

活動区分資金収支計算書の推移

(単位:千円)

収入の部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度 増減
教育活動による資金収支						
教育活動資金収入計	9,974,188	10,715,520	10,588,109	10,613,391	11,369,599	756,208
教育活動資金支出計	7,269,670	8,388,060	7,877,626	8,249,237	9,398,309	1,149,072
差引	2,704,518	2,327,460	2,710,483	2,364,154	1,971,290	△ 392,864
調整勘定等	58,728	△ 259,172	△ 15,628	185,287	△ 507,439	△ 692,726
教育活動資金収支差額	2,763,246	2,068,288	2,694,855	2,549,441	1,463,851	△ 1,085,590
施設設備等活動による資金収支						
施設整備等活動資金収入計	2,769,070	2,425,809	38,331	6,576,111	154,817	△ 6,421,294
施設整備等活動資金支出計	3,381,958	8,579,674	4,231,270	6,011,767	5,789,336	△ 222,431
差引	△ 612,888	△ 6,153,865	△ 4,192,939	564,344	△ 5,634,519	△ 6,198,863
調整勘定等	24,157	△ 169,596	436,574	△ 2,628,135	2,499,999	5,128,134
施設整備等活動資金収支差額	△ 588,732	△ 6,323,462	△ 3,756,365	△ 2,063,792	△ 3,134,519	△ 1,070,727
小計	2,174,514	△ 4,255,174	△ 1,061,510	485,649	△ 1,670,668	△ 2,156,317
その他の活動による資金収支						
その他の活動資金収入計	13,858,057	11,501,410	11,127,422	17,116,598	11,889,041	△ 5,227,557
その他の活動資金支出計	17,541,629	8,325,269	10,200,321	17,172,017	11,901,076	△ 5,270,941
差引	△ 3,683,572	3,176,141	927,101	△ 55,419	△ 12,035	43,384
調整勘定等	0	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 3,683,572	3,176,141	927,101	△ 55,419	△ 12,035	43,384
支払資金の増減額	△ 1,509,058	△ 1,079,033	△ 134,409	430,230	△ 1,682,703	△ 2,112,933
前年度繰越支払資金	8,007,608	6,498,550	5,419,517	5,285,108	5,715,338	430,230
翌年度繰越支払資金	6,498,550	5,419,517	5,285,108	5,715,338	4,032,635	△ 1,682,703

貸借対照表の関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
1	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	89.0%	90.2%	90.7%	91.9%	92.1%
2	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.1%	98.9%	99.4%	100.0%	100.0%
3	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	84.7%	90.9%	93.9%	89.5%	96.1%
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	18.2%	11.8%	9.0%	13.1%	7.2%
5	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	521.7%	398.0%	287.2%	442.1%	210.6%
6	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	511.9%	463.9%	445.1%	444.7%	322.3%
7	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	12.4%	10.8%	10.3%	8.8%	8.6%

事業活動収支計算書関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
1	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	20.4%	14.3%	13.8%	28.4%	4.4%
2	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	78.3%	76.6%	78.8%	78.7%	74.6%
3	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	11.5%	13.0%	14.0%	29.7%	18.5%
4	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	47.8%	45.0%	48.4%	46.8%	47.6%
5	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	28.8%	36.8%	33.2%	35.5%	40.1%
6	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	3.8%	65.1%	34.8%	9.9%	41.8%
7	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	61.0%	58.7%	61.4%	59.5%	63.9%

在学生数・教職員数の推移

区 分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
在学生数 (単位:名)					
大学院	23	29	35	29	30
大学	5,139	5,325	5,292	5,311	5,447
短期大学	299	272	240	193	74
高等学校	714	746	751	689	622
中学校	510	503	510	532	515
小学校	494	494	514	528	549
幼稚園	210	210	210	208	209
幼稚園安東園舎	207	208	206	210	212
計	7,578	7,596	7,787	7,700	7,658
教職員数 (単位:名)					
大学	602	593	595	577	624
短期大学	32	29	28	28	10
高等学校	86	91	82	82	83
中学校	57	61	58	57	57
小学校	50	46	47	46	51
幼稚園	31	30	29	28	30
幼稚園安東園舎	27	26	26	27	28
その他	3	3	3	3	3
計	867	888	879	848	886

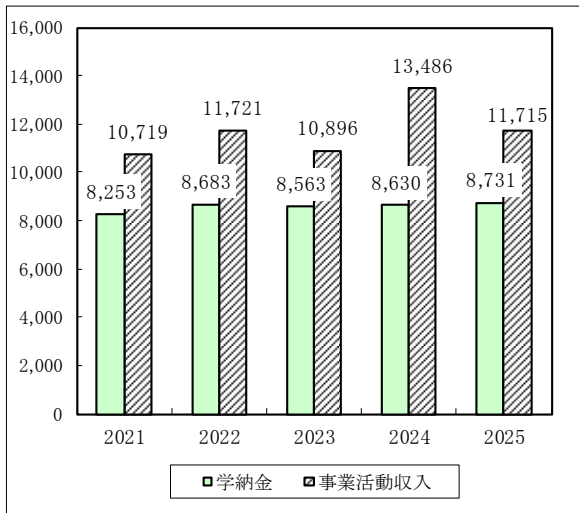
財務の概要

(5年間の財務 経年比較表)

(単位：百万円)

項 目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
①学生生徒等納付金	8,253	8,683	8,563	8,630	8,731
②事業活動収入	10,719	11,721	10,896	13,486	11,715
③経常収入	10,536	11,337	10,869	10,972	11,705
④基本金組入額	△ 412	△ 7,628	△ 3,787	△ 1,341	△ 4,891
⑤事業活動支出	8,537	10,041	9,397	9,657	11,196
⑥教育研究経費	3,032	4,172	3,605	3,895	4,691
⑦有形固定資産	36,518	41,196	41,471	45,553	49,258
⑧総 資 産	58,750	59,793	61,133	64,479	64,925

学生生徒等納付金及び事業活動収入の推移

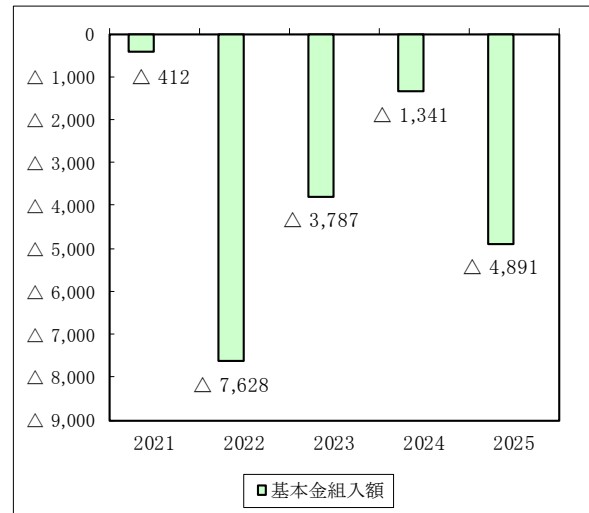


(%)

項 目	2021	2022	2023	2024	2025
学生生徒等納付金比率	78.3	76.6	78.8	78.7	74.6

(学生生徒等納付金÷経常収入)

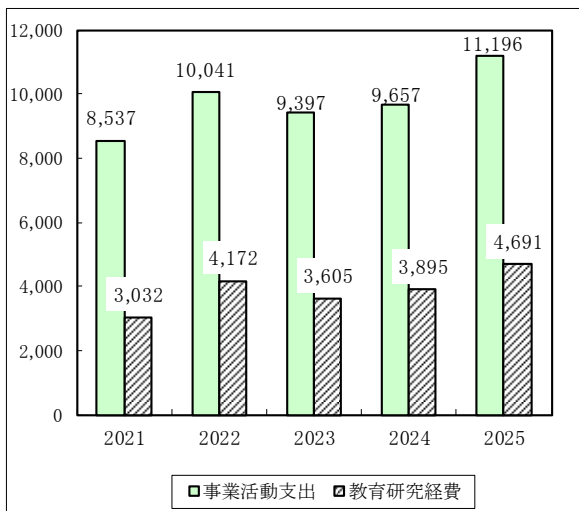
基本金組入額の推移



(%)

項 目	2021	2022	2023	2024	2025
基本金組入率	3.8	65.1	34.8	9.9	41.7

事業活動支出及び教育研究経費の推移

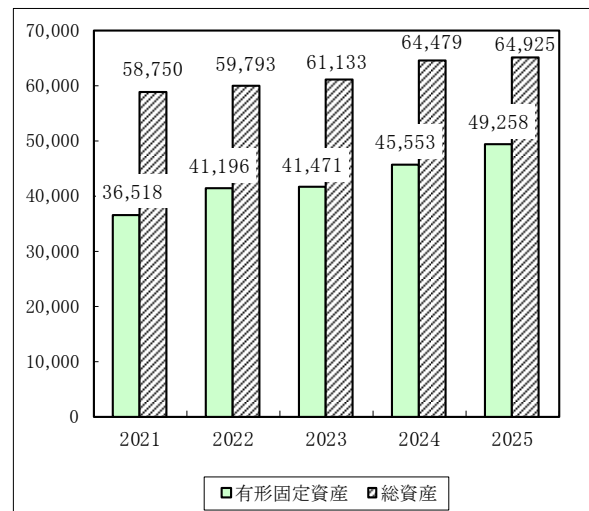


(%)

項 目	2021	2022	2023	2024	2025
事業活動支出比率	79.6	85.7	86.2	71.6	95.6
教育研究経費比率	28.8	36.8	33.2	35.5	40.1

(教育研究経費÷経常収入)

総資産及び有形固定資産の推移



(%)

項 目	2021	2022	2023	2024	2025
有形固定資産構成比率	62.2	68.9	67.8	70.6	75.9

内部統制システムの整備及び運用状況の概要

本学園では、私立学校法第 47 条に基づき、理事会において「内部統制システム整備の基本方針」を策定しています。当該方針に基づき、以下の体制整備を進めています。

① 経営に関する管理体制

理事会・評議員会の適正な運営、職務分掌・決裁権限の明確化等により、業務執行の適正性を確保しています。

② リスク管理に関する体制

学園の事業運営に影響を及ぼすリスクについて、関連規程に基づき、把握・管理の枠組みの整備を進めています。

③ コンプライアンスに関する管理体制

法令及び規程の遵守に向け、コンプライアンス推進規程の整備や周知、相談体制の整備等、必要な取り組みを進めています。

④ 監査環境の整備

監事監査規程に基づく監査の実施、内部監査部門との連携等により、監査機能の充実を図っています。

附属明細書

特記事項なし

学校法人安田学園

〒731-0153

広島県広島市安佐南区安東 6 丁目 13-1

Tel:082-878-6321